

ベースキャンプの事故へのベアール社からの声明

2019年8月9日

株式会社ロストアロー 坂下直枝様

2019年の7月2日、私たちは貴社とミュンヘンのISPO展示会場ベアールブースでベースキャンプで起きた事故についてのミーティングを持ちました。

この時点では事故の詳細は不明でしたので、この事故はLock Up Schoolに使用しているツイン・スミス・キャプティブ・カラビナに何らかの問題があったのではないかと推測しました。そして、使用中に何らかの理由で、カラビナからビレイループが外れたのではないかと考えました。2018年1月の発売以来579セットを販売して、これまで全く問題がなかったLock Up Schoolで、なぜこのような事故が起きたのか数日考え続けました。

そして私たちは、ツイン・スミス・キャプティブ・カラビナの製造元である、グリベル社に連絡を取り、この商品にこれまで問題がなかったかどうかを問い合わせました。7月11日、グリベル社のオリビエロ・ゴビ氏から「ツイン・スミス・キャプティブ・カラビナは、これまでのところ問題は何も起きていません」との回答があり、「このような事故があったとは想像しがたいけれども、この事故の状況をぜひ詳しく調査して欲しい」と言われました。

ベースキャンプとロストアローの皆様の調査結果とその結論を引き出した専門知識に感謝します。これによって導かれた事故の原因は、ほぼ特定できたように思われます。

- * ユーザーは、Lock Up Schoolをユーザーのハーネスのビレイループに装着した
- * ユーザーは、ブラックダイヤモンド・ウイメンズ用ゾーンハーネスを使用していた
- * このハーネスのビレイループは、他のハーネスのビレイループに比べると幅が狭く非常に固い
- * ユーザーは途中墜落し、その後登り始めた時にロープが完全に張られておらず、ゆるみが生じた
- * ツイン・スミス・キャプティブ・カラビナは、ひねりが加わり半回転して、ビレイループに捕まった
- * ユーザーが再度墜落した結果、カラビナがビレイループから完全に開放された

この事故は、上記の非常にまれな要因が次々積み重なって起きたと推測されます。

このような事故の発生は信じられぬほどで、これら要因の積み重なるの予測は不可能といえるでしょう。誠に複雑な事故原因を突き止めた皆さんの努力に感謝するとともに、ベアール社はLock Up Schoolの使用についての従来の推奨を、ただちに変更する決定をしました。

ベアール社は、タイインループが上下二か所のハーネスを使用するときは、Lock up Schoolのカラビナを上下のループの両方に必ず装着するようにと変更致しました。この情報を伝える手紙は、2019年7月23日にすべてのLock Up Schoolを購入した人に送られました。*1

ベアール社は、今回ロックアップスクール取扱説明を変更しましたが、ハーネスはベアール社のエアロチームなどタイインループが二か所のものを推奨いたします。当然のことながら他社のハーネスについてコメント(適しているとか適していないとか)することはできないことをご理解ください。

ミシェル・ベアール、フレデリック・ベアール

*1 日本では未発表ですが、販売中止と販売先への使用停止のお願いを2019年7月8日に行いました